

第27回 兵庫県生物学会総会報告

1973 5 26, 27 於 県立篠山鳳鳴高等学校

第1日

○三浦会長あいさつ

昭和48年度の総会を全面改築のなりました鳳鳴高校で、丹有支部の役員の方々のお世話で開かれることにいたしましたことに深く感謝いたしたいと思います。本生物学会は小中高一貫教育を旨として実践されている唯一の団体ではないかと思えます。生物教育、自然保護、公害問題については幼時から教育されるべきものであるということと一般の方々にも関心を持ってもらう必要があると思えます。新カリキュラム発足の年でもあり、この総会が有意義に終ることを切望します。

○来賓祝辞 鳳鳴高等学校長 藤田 輝男氏

本校はこの4月に完成したばかりであります、その第一回の公の催しとして生物学会の場に使用されることを光栄に存じております。多紀連山は本当の自然の美を示しており、「父なる阪神、母なる丹波」と言われております当地で十分な成果を挙げられんことを希望します。

○森、三木、紅谷生物研究奨励金授与

安藤保二氏(神戸西高校)貝類の研究
春名利雄氏(神戸東舞子小学校)理科生物教育
細見末雄氏(氷上郡氷上町)植物の調査分類

研究発表

- 細見 末雄氏 丹波の植物について
- 富川 哲夫氏 サルスケンミジンコの正常発生について(文書発表)
- 前田米太郎氏 最近発見したキイロシヨウジョウバエの突然変異体について(文書発表)

議 事

1. 役員改選

4月21日の理事会で次期会長の選衡を現会長に一任することに決定し、室井禎氏が推薦され、本総会において全員で承認決定

新会長 室井 禎氏 あいさつ
前会長 三浦佳文氏に感謝状贈呈

2. 会計報告 平畑政幸氏(裏表紙裏参照)

3. 次期総会場の決定

昭和49年度は神戸地区、昭和50年度は阪神地区に決定

4. 行事計画について 平畑政幸氏

夏期研修会計画を下記のように決定

と き 8月20日(月), 21日(火), 22日(水)

と ころ 明石市 { 県立水産試験場
 { 県立農事試験場

や ど 県立野外活動センター

5. その他

生物ハンドブックについて 内波秀一氏

6月5日に本ができます。定価230円

講 演

シダ植物の分類について

京都大学助教授 岩槻邦男先生

見 学

A. 今田町立杭の丹波焼本場の見学

B. 水気耕栽培の実験農場(協和化学)の見学
水気耕栽培について

水気耕栽培は一見、水耕(礫耕)とよく似ているように見えるが、その最も大きな相違点は根に十分な酸素を供給するために培養液に空気混入装置により空気を混入しつつ、モーターポンプでその培養液を循環させる点である。この装置に保温用の温室(ビニールハウス)を併用し、茎葉からの酸素吸入を促進するために通気ファンをつけるのが普通である。

水気耕の特長

- 1) 生育がスピード化されるので増収と直結する。
- 2) 常にバランスのとれた肥料、酸素を供給できるので品質管理が容易となる。
- 3) 設備、材料の洗滌、消毒等が簡単で、連作が可能である。
- 4) 清浄栽培が容易であるため、生食用疎菜の栽培にも適している。ミツバ、セロリーなど。
- 5) 酸素の十分な供給により根が老化しにくいので地上部の生育がよく、長期栽培が可能である。(例: トマト・7月播種、翌年6月まで栽培、21段果房まで収穫可能)
- 6) 灌水、施肥が機械化され、労力が省かれる。
- 7) 地温が上昇すれば土中の酸素不足により呼吸困難となり根の生育障害を起こすのが普通であるが、水気耕では高温障害を回避することができる。

問題点

1. 病虫害に対する対策が必要、病菌が浸入すると全滅にひんする危険があるのでこれを未然に防除する必要

がある。

2. 光的要素が問題となって残されている。
3. 付帯設備としての温室施設費が高くつき、コスト高になるので、できるだけローコストになるような工夫が必要である。 (近藤記)

第3日

自然観察会の記録

総会2日目は多紀アルプスの小金ヶ岳を中心に観察会がもたれた。

晴天にめぐまれて、参加会員は約40名国鉄の貸切バスで午前9時に宿舎前を出発、40分で登山口の大タワに着

く。松山支部長から日程の説明と講師紹介があり小金ヶ岳へ登る。頂上までの道々、講師の岩槻邦男先生、細見末雄先生、樋口繁一先生から植物、地形など詳しい説明を聞き、会員の皆さんは熱心にメモされていた。日曜日のせいか登山者が多い。

頂上で昼食の後、岩槻先生からシダ植物について講演を聞く。登山の途中採集されたシダ——クラマゴケ、ゼンマイ、オシダ、シノブ、イヌシダ、フジシダなど——について生活史、分布など興味深い話であった。記念写真を撮った後下山解散した。 (永井壮一郎氏記)